



『ふるさと府中』をもっと知ろう！』

校長 高汐 康浩

第4号
令和6年5月15日
府中市立
府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年216名、二学年250名、三学年261名
 全校生徒数727名
 〈学校住所・電話番号〉
 〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
 電話 〇四二(三六四)一八八一

熱中症に 注意!

今年も『くらやみ祭』が盛大に行われました。私も囃子(はやし)の競演や神輿(みこし)、太鼓(たいこ)の饗宴(きょうえん)、山車(だし)行列などを存分に楽しみました。お祭りではたくさんの中生の皆さん、八中の卒業生の皆さんとお会いしました。生徒の皆さんの中には、離れた場所にも関わらず、「校長先生！」と声掛けをしてくれて、くらやみ祭について話をする事ができました。改めて、八中生の礼儀正しさやあいさつを大切にしようとする姿勢に大きなエールを送ります！

五月五日のクライマックス「神輿渡御(とぎよ)」では、担ぎ手たちが「ほいさ、ほいさ」と掛け声を掛け合いながら、頭に烏帽子(えぼし)をかぶり、白丁(はくちょう)を着て盛り上がっていました。神輿の前には「太鼓送り込み」があります。大きな太鼓を野球のバットのような長いバチで叩くその音は迫力満点です。

さて、今年四月に市制七十周年を迎えましたので、七十年前の府中について、少し触れたいと思います。昭和二十九年の三月三十一日以前は府中市のあたりは、北多摩郡といわれる行政区画でした。現在、東京都にある郡は西多摩郡だけであることは知っている人もいないのでしょうか。

その年の四月一日からは、北多摩郡の西府村、府中町、多磨村が合併して新たな市である府中市ができました。これが市制施行です。下段に、市制施行当時の地形図を掲載しましたので、見てみてください。府中八中の周りは田畑が広がっていたことが分かります。当時の府中市の人口は約五万人でした。現在の府中市の人口は二十五万人を超えています。

※三之宮は京所(きょうす)：今の宮町二丁目、三丁目あたりの昔の地名)を指しています。



【市制施行の頃の府中市西部の地形図】

《地形図を見ながらやってみましょう》

- 1 府中八中の位置を探しましょう。
- 2 中央高速道路の位置をたどってみましょう。
- 3 自宅付近の当時のようすを読み取ってみましょう。

(この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」((C)谷 謙二)により作成したものです。)



活躍する八中生

【敬称略】

★陸上競技部★

第七十五回 東京都地域別陸上競技大会（多摩東部）

2・3年 男子走幅跳 第二位 小笠原 結大

共通女子 4×100m 第七位

亀山 遙陽 中川 結咲 不動田 玲希 松川 玖歩

共通女子 200m 第二位 中川 結咲

共通女子 100mH 第八位 松川 玖歩

共通男子 走高跳 第三位 田島 雅隆

共通女子 走幅跳 第八位 不動田 玲希



お矢がせ

思春期は、心身ともに大きく成長する時期だからこそ、悩みをもつことがあります。悩みを抱えてしまっていて困っているときに、相談できる相談窓口はたくさんありますので、安心してください。これまで配布してきたリーフレット「不安や悩みがあるときは：一人で悩まず、相談しよう」と「TOKYOほっとメッセージチャンネル」を紹介しますので、活用してください。下のQRコードからアクセスできます。



発見 対話 授業のようす 決定 表現

五月九日の一年生の理科（橋本主任教諭）の授業では、生徒たちは、たんぽぽの花を双眼実体顕微鏡やルーペを使って観察とスケッチをしました。授業をとおして、たんぽぽの花は小さな花が集まっていて、たんぽぽの花は小さな花が集まっていて、一つの小さな花がさらに裂けて見えるなどの新しい発見がたくさんありました。



五月十日の二年生の音楽（酒井教諭）の授業では、『夏の思い出』の授業では、生徒たちは、歌唱だけでなく伴奏からも強弱や抑揚などから気付いたことなど、たくさんの発見したことをまとめました。酒井教諭の「感じたことが正解」という言葉で、たくさんの生徒が感じたことを発表しました。八中生の皆さんの表現力の高さにはいつも驚かされます。

事故に遭わない・起こさない

水の事故に注意！

事故に遭わない・起こさないという気持ちを持ち続けよう！

◆ 次の事例を読んで考えましょう ◆

中学生のAさんは、毎年夏休みに川遊びをします。生き物が好きなAさんにとっては、魚や虫などたくさん生き物がいる川はとても魅力的な場所です。絵のように、今年も川遊びを楽しんでいました。しばらくすると、水かさの流れの速さは、あまり変わらないのですが水がだんだんと濁ってきました。同時に、足に感じる水の勢いが強くなってきたように感じました。

【考えましょう】

① 水が濁ってきた理由を考えよう。

② 足に感じる水の勢いが強くなってきたのはなぜですか。

③ あなたがAさんだったら、この後、どのような行動を起こしますか。理由も合わせて答えましょう。

水に関わる子供の事故の約6割は川や湖で起こっています。ひとたび水辺の事故に遭遇すると、こうした楽しさはすべて奪われてしまいます。川や水辺、プールなど、水にひそむさまざまな危険性を知っておくことが大切です。子供だけで、川や水辺で活動することがないようにしましょう。

夏が近づき、プールや海などの水辺で活動することが多くなってきました。いろいろな体験をする絶好のチャンスですが、常に「事故に遭わない、事故を起こさない」この気持ちを持ち続けることが大切です。万が一、危険な場面に遭遇したり、少しでも危険であると感じたりしたときは、躊躇（ちゅうちゅう）せず危険な場所から速やかに離れ、すぐに、大人に報告しましょう。

【考えましょう】の答えは次号に掲載します。

参考資料：公益財団法人 河川財団「水辺の安全ハンドブック」

